

## 【第1回会合における主な議論】

- 平成30年に策定された生体電磁環境の研究に関するロードマップについて、ICNIRP等の国際的な動向を踏まえ、まずは夏頃を目指して改定を検討していくべきではないか。  
また、その後、WHOが定める取り組むべき研究課題が公表されたら、来年以降、随時更新できるように進めるのが良いのではないか。
- 近接結合型WPTについては、国際的な標準化・規格化が進行中であり、あわせて国内制度も検討する必要がある。  
また、近接結合型WPTの推進のためには、制度化に関する迅速な判断が必要である。
- 今後の生体の研究開発の検討・推進に当たっては、周波数帯によって較正の標準機が整備されていない場合等もあることを踏まえ、(構成員から共有のあった) Beyond 5G/6Gを支える計量標準・較正技術ロードマップなども参考になるのではないか。
- 外国(オランダ)において、電波の安全性に関する情報をワンストップで調べることができるプラットフォームが設置されているところ、日本でも同様のものがあれば消費者の知りたい欲求に応えられるのではないか。
- 会議中、また会議後に、構成員等から電波環境分野におけるその他の政策課題や問題意識についてインプットできるものがあれば随時行いたい旨の発言・連絡があった。

👉 今後、生体電磁環境の研究(ロードマップ)の在り方とWPTの制度の在り方を中心に議論を進めてはどうか。  
また、電波環境分野におけるその他の政策課題等についても、引き続き、意見交換・整理を進めてはどうか。